

資料3

(案)

令和6年(2024年)●月●日

札幌市長 秋元 克広 様  
札幌市教育長 山根 直樹 様

伏古本町・札苗地区学校配置検討委員会  
代表委員 岩谷 隆司

「東苗穂小学校と伏古小学校を中心とした学校施設・地域  
コミュニティ施設の再構築」に関する意見書

記

1 伏古本町・札苗地区の小学校再編及び児童会館の複合化について

(1) 小学校再編の考え方

児童の教育環境の向上を図る観点から、伏古本町・札苗地区の東苗穂小学校と伏古小学校を再編する。

(2) 小学校再編の実施方法

ア 児童の通学距離や学校敷地の面積、建築物の耐用年限等を考慮し、現在の伏古小学校敷地を活用して再編する。

イ 再編にあたっては、既存の学校施設では再編後の児童を収容できないこと、また、施設の老朽化の状況を踏まえ、伏古小学校校舎を改築し、両校の児童が新しい気持ちで通学できるよう十分な配慮を行うこと。

(3) 児童会館の複合化

札幌市の地域コミュニティ施設の複合化の方針に基づき、児童会館を複合化することとし、その運用にあたっては児童の安全確保や学習環境の向上に最大限配慮すること。

(4) 再編時期

建築資材や人材の不足、週休二日制の完全実施など、近年の建築事業にまつわる社会情勢を踏まえると、工事等のスケジュールが見通せない状況にあるが、一年でも早く改築による教育環境の整備がなされるよう最大限の配慮を行うこと。

## 2 通学区域案

小学校再編後の通学区域は、東苗穂小学校と伏古小学校の現在の通学区域を合わせたものにする。

## 3 通学安全に関する要望等

通学距離が長くなる児童や通学路が変更される児童もいることから、学校や保護者、地域等は、これまで以上に連携を深め、地域全体の課題として除雪を含めた児童の通学安全に関する取組を充実させていくことが必要と考える。

札幌市と札幌市教育委員会は、これらの取組に協力するほか、児童が安全かつ円滑に通学できるよう十分配慮すること。

## 4 その他の要望

- (1) 小学校の再編に向けて、児童や保護者、学校間の交流事業等を実施するなどし、児童や保護者が安心して再編後の小学校における活動を行える環境を整えること。
- (2) 小学校の再編前後においては、教職員の業務負担増が考えられることから、児童により良い教育環境を整えるため、教員の追加配置等に配慮すること。

- (3) 再編後の小学校において、両校の特色ある教育内容やその歴史等に配慮しつつ、学校名も含めて未来志向の「新しい学校づくり」を進めること。

案

なお、「新しい学校づくり」の観点からは、再編後の学校名について、現在の両校の学校名をそのまま用いることは、慎重に考慮すべきものと思われる。「新しい学校」にふさわしい名が別途検討されることを望みたい。

- (4) 東苗穂小学校の跡活用については、東苗穂小学校の閉校時期が見通せた段階において札幌市役所内部の公共利用の有無を調査することとし、活用意向がない場合には、地域の意見を十分に聞きながら、民間事業者への売却を前提とした活用方法を検討すること

最後に、今回の再構築の取組により、子どもの教育環境の改善はもとより、この伏古本町・札幌地区が一層魅力ある地域になることを望みます。